

令和3年度第1回 旭川市手話施策推進会議 会議録

1 開催期間

令和3年6月3日（木）から令和3年6月22日（火）まで

2 開催場所

書面開催

3 参加者【委員 10名】

栗田克実委員，山根昭治委員，中川雅敏委員，橋本由美委員，小林房子委員
日向峰子委員，門脇恵理子委員，森愛美委員，加藤弘委員，岸本奈々委員

4 議事及び資料

(1) 令和2年度 of 取組結果

ア 手話出前講座関係（資料1-1～1-2）

イ こども手話講座関係（資料2-1～2-2）

ウ 手話講習会関係（資料3）

エ 意見交換会関係（資料4-1～4-2）

(2) 令和3年度 of 取組（案）

ア 手話普及のための取組予定（資料5-1）

イ 委員からの意見に対する現状・課題・方向性（資料5-2）

ウ 令和3年度手話施策に係る意見交換会（資料5-3）

5 意見等

別紙のとおり

【議事1 令和2年度の取組結果】

	質問・意見	理由等
ア 手話出前講座	コロナ禍による実績減少はやむを得ないが、前年より実績増の団体があったこと、リピーターが3割ほどいたことは喜ばしい。	
	コロナの影響により、実績は減少しているが、講座を実施することができたことはよかった。	
	大学生にコミュニケーションツールとして経験してほしい。	社会人となったときに、聴覚障がい者や、盲ろう者、難聴者と接し、配慮した行動ができると考える。
	PRに関してFBやInstagramの活用をしてはどうか。	
イ こども手話講座	アンケートの結果、夏休み等ではない、土日祝日の開催希望が多い。実現してほしい。	親子での参加が可能なことで、出前講座と異なる成果があるように思う。
	コロナの影響により、実績は減少しているが、講座を実施することができたことはよかった。	
	こども手話講座で手話を学び、聴覚障がい者の映画で障害と周囲からのアプローチを学んで欲しい。	手話で講師と会話できた喜びを感じているときに、聴覚障がい者の映画で深く理解できると考える。
ウ 手話講習会 意見等なし		
エ 意見交換会	会場の設営は市だけではなく、委員と一緒に行ってほしい。	聴覚障がい者、盲ろう者など障がい特性にあった会場設営が必要のため。
	アンケート結果の中に大切なことが凝縮されており、開催の意味が大きかったことがわかる。 参加者にアンケート結果を伝える予定はあるか。	手話条例をきっかけとして、市民が聴覚障害者全体へ目を向ける広がりにつながっていると感じた。意思疎通の手段も多種あることを理解する一助になって欲しい。 災害時の意思疎通への備えは切実な問題である。

エ 意見交換会	テーマ設定は適切であった。旭川市において聴覚に障害がある方を含めた高齢障がい者の福祉的支援の現状及びどのような課題があるのか知りたい。	当事者のみならず、地域住民の代表も参加していただいたうえで、聴覚障がい者を取り巻く地域の現状に対する認識を伺うことができたため。
	災害時、緊急時に聴覚がい者が民生委員・市民委員会・町内会等に支援が可能な人かわかるように、バッチやTシャツ（手話ができますといったマーク等）。他に障がい者一般が対応可能なマークなどがあると障がい者自身から声をかけてもらえると考える。	支援・救助者から障害当事者に装着していただきたいように、障がい者からも誰がどのような支援ができる人なのかも大切なことだと考える。

【議事2 令和3年度の取組（案）】

	質問・意見	理由等
ア 手話普及のための取組予定	「新規」「拡充」の取組を計画通り進めてほしい。	手話普及のためには複数回の受講が必要。リーフレットが手元にあり、日々目にするのが大切。
イ 委員から意見に対する現状・課題・方向性	(5-2-2) 名称の変更はせず、そのままの方がいいと考える。	親子参加は望ましいが、それぞれの家庭の事情があり、親子でなければ参加できないと思われては参加しづらくなるのではないかと思われる。
	(5-2-7) 手話通訳者は頸肩腕症候群の状態になりやすい。頸肩腕症候群により苦しむ通訳者を発生させないため、通訳者の健康管理に関する取組を旭川市としてお推進してもらいたい。	
	(5-2-9) 手話出前講座の回数緩和は必要ないと思う。	興味を持った人については、次の学習の場（手話講習会、手話サークル等）に案内していけばいいと思う。

ウ 令和3年度手話施策に係る意見交換会	全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画「咲む」上映会	「旭川市手話言語に関する基本条例」制定5周年と合わせて、条例制定時の記念講演を行った早瀬健太郎氏が監督をした映画の上映会により、共生社会の大切さを知ってもらう。
	「咲む」の上映会	「旭川市手話言語に関する基本条例」制定5周年のため。
	緊急時（災害等）の行動に関する具体策の提案。	昨年度は、それぞれの立場からの話を聞き、連携の必要性を共有した。それと関連した内容にすることで、参加者の理解を深める。 ・災害発生を知る手段 ・避難するまでの対応 ・避難所での情報保障 など
	「旭川手話言語に関する基本条例」が制定されてから5周年を迎え、節目の年であるため、記念事業が望ましい。	
	緊急時における支援として、新型コロナウイルス等の感染症や医療機関への受診全般に係る課題について意見が交換できるといい。	
	手話通訳者になったきっかけ、今後の思いなどを聞けたらいい。	
	手話に興味を持つ人（手話講習会に参加した人等）に疑問に思うことや、知りたいことを徴取して内容を検討してはどうか。	